

大会名称: 第61回国民体育大会(のじぎく兵庫国体)

バスケットボール競技

開催場所: グリーンアリーナ神戸 Eコート

試合区分: No. 307 少年男子 1回戦

期 日: 2006(H18)年10月1日(日)

主審: 谷地 温

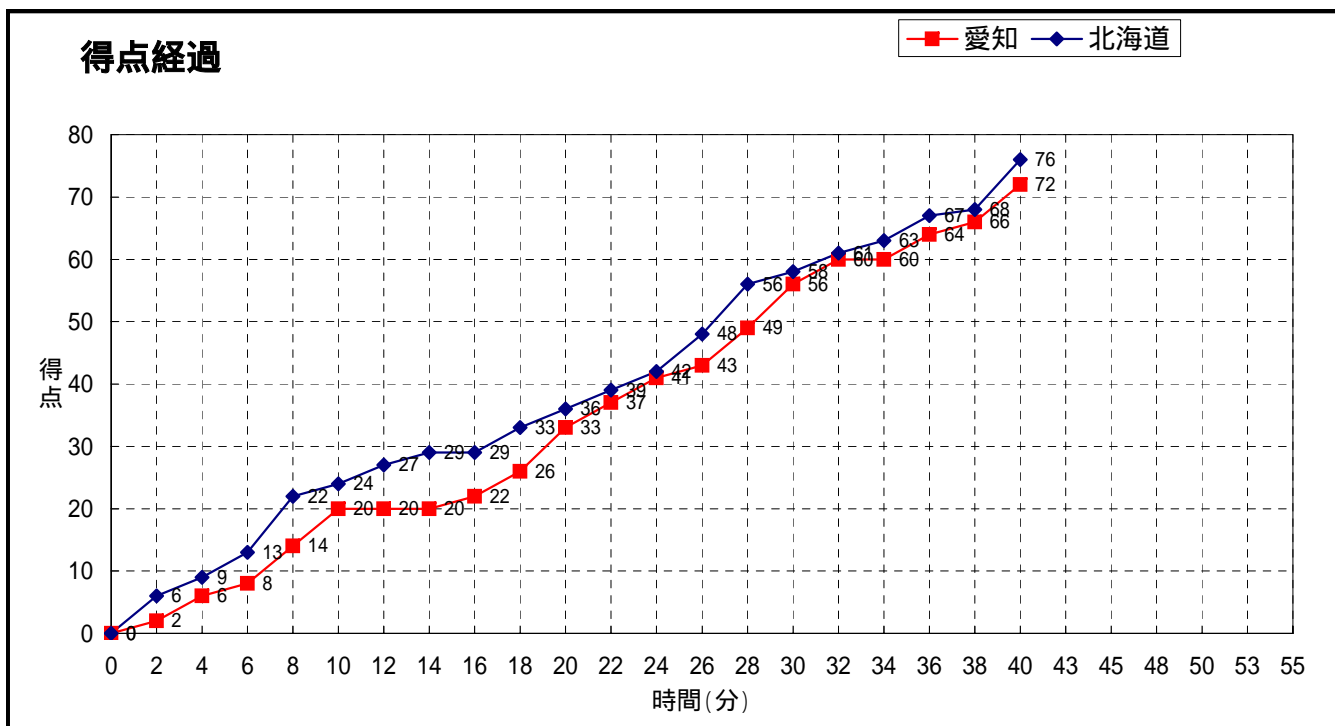
開始時間: 15:15

副審: 永山 忠利

終了時間: 17:50

北海道						愛知									
76						72									
(北海道)						(東海)									
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	*	菊地 庸広	3	0	1	1	2	4	*	近藤 健太	10	0	4	2	2
5	*	渡邊 則次	0	0	0	0	0	5	*	稲葉 努	24	0	11	2	3
6	*	坂上 亮	32	6	6	2	4	6		丸川 弘晃	-	-	-	-	-
7	*	荒井 祐人	5	0	2	1	4	7	*	伊藤 聖也	8	0	2	4	1
8	*	福田 真生	10	0	2	6	4	8		村田 隆行	0	0	0	0	2
9		濱名 駿	11	3	0	2	2	9		北林 透	0	0	0	0	0
10		川口 裕介	-	-	-	-	-	10	*	加納 誠也	9	0	1	7	4
11		永井 裕康	-	-	-	-	-	11	*	伊藤 大	8	0	2	4	3
12		水戸 浩二	8	1	2	1	1	12		佐藤 諒	-	-	-	-	-
13		亀谷 忠明	5	1	1	0	2	13		成田 承治	5	1	1	0	0
14		野呂 竜比人	2	0	1	0	2	14		村瀬 友吾	8	0	4	0	1
15		内藤 慎也	0	0	0	0	1	15		原田 拓弥	0	0	0	0	0
コーチ		長野 雅男						コーチ		原田 俊博					
合計			76	11	15	13	22	合計			72	1	25	19	16

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファウル



ゲームレポート

第1ピリオド、両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。両チームともディフェンスが厳しく、スクリーンプレーからのチャンスをうかがう。愛知は#4近藤のスピードあふれるカットインや#14村瀬のミドルシュート、オフェンスリバウンドからの得点を重ねるが、残り5分55秒でチームファウルが5つ目となり苦しい展開。対する北海道は#7荒井、#6坂上のバスケットボール・カウントとワンスロー成功での3点プレーや、#6坂上の5連続得点で終始リードを保ち24-20の4点リードで第1ピリオド終了。

第2ピリオド、愛知は2-1-2ゾーンで相手の得点をおさえようとするものの、オフェンスもゴール下のシュートがなかなか決まらない。一方、北海道もなかなかシュートが決まらないものの、#13亀谷がジャンプシュートを決め、33-25と8点差とする。その後一進一退の攻防となり36-33で第2ピリオド終了。

第3ピリオド、出だし、愛知は、#5稲葉、#11伊藤(大)のシュートが連続で決まり、37-36とこの試合初めてのリードを奪う。大きめの2-1-2ゾーンをひき、北海道のアウトサイドシュートを防ぐ。北海道は残り5分チームファウルが5つ目となり、苦しい展開となったが、#6坂上の3本の3Pシュートなどで一時は9点差までリードを広げた。しかし、その後は愛知#10加納がシュートやフリースローなどを決め、2点リードで第3ピリオド終了。

第4ピリオド、愛知は2-1-2ゾーン、北海道もマンツーマンを続ける。愛知は#5稲葉のゴール下シュート、北海道は#12水戸のカットインプレーなどで応酬、4点以内の差でゲームが進んだ。残り11秒愛知#11伊藤(大)がランニングシュートで71-72とするが、残り2.5秒で北海道#12水戸が3Pシュートを決め、74-72と逆転する。愛知はさすがタイムアウトを取り、最後のワンプレーに望みをかけたが、北海道#8福田がパスカットし万事休す。#8福田はファウルをもらいフリースローを2本決め、北海道が4点差で逃げ切った。

担当者: 猪垣 敦(兵庫県バスケットボール協会)

(財)日本体育協会・(財)日本バスケットボール協会